

## 「土木遺産」①

日本にある世界遺産は今年の7月に百舌鳥・古市古墳群が登録され、世界文化遺産が19箇所、世界自然遺産が4箇所となり合わせて23箇所の世界遺産があります。

世界遺産と比べると規模は違いますが、土木学会が後世に残すべき構造物として、兵庫県内には沢山が土木遺産あります。シリーズで紹介したいと思います。

いつも会社から武庫川沿いを真直ぐ下り2号線を曲がって、ヒューイットに来るのですが、西宮市と尼崎市に架かる『武庫大橋』が土木遺産として登録されています。

1日4万台の交通量があり、大動脈の貴婦人とも言える橋です。



武庫大橋は今から90年以上も前、大正の終わりから昭和にかけて造られました。

鉄筋コンクリートで出来ており、中央は6連のアーチで両サイドは同じ鉄筋コンクリートの桁橋です。

中央のアーチに工夫のあるデザインでアーチの橋のように見せています。

完成当時は中央に電車が走り、両側が車道と歩道だったそうです。関東大震災の教訓を生かして耐震性を高めて建造されているため、阪神淡路大震災にも被害はなく、今もなくてはならない橋として重要な役割を果たしています。

地域のランドマークとしてデザインにも配慮されており、橋の表面は人造石で飾り、高欄には花崗岩が使用されています。橋の中央にあるテラスには青銅製の電灯柱が設けられ、大正ロマンを感じさせる橋です。

